

学校だより

四日市市立桜小学校

さくらっ子

平成30年12月21日

第24号



2学期 終業式…そして楽しい冬休み！

残暑が厳しい9月にスタートした2学期も、本日をもって終業です。夏の終わりから秋を経て冬の始まりまで、四季のうちの3つの季節をまたぐ変化に富んだ2学期でした。

その間、日常の授業や学校生活はもちろんのこと、社会見学や修学旅行、三四年级音楽会、学習発表会や持久走記録会など様々な行事や活動の場面で、仲間と助け合いながら意欲的に取り組むさくらっ子の姿をたくさん見ることができました。

各ご家庭におかれましては、本日お渡しする連絡表や個人懇談会での話などをもとに、お子様と2学期を振り返っていただき（がんばりや成長を大いにほめてください）、17日間の冬休みの生活や3学期に向けてのめあてなどについて、お話いただければと思います。

保護者・地域の皆様には、2学期も、本校の学校教育にご理解ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。寒さも厳しく何かと忙しい年末・年始です。体調にご留意いただき、「平成」最後となるよいお年をお迎えください。



冬休みにがんばりたいこと

【自分ができる役割をはたそう！】

新しい年を迎えるこの時期は、ネコの手も借りたい忙しさです。年末・年始にかけていろいろと計画があることと思いますが、ぜひ、お子様にも何か役割を担わせていただきたいと思います。家族の一員として役に立ったという達成感が、家族の絆を深め、働くことの喜びや価値を習得することにつながると言われます。「玄関の掃除は任せたよ」「窓のガラスみがきは全部頼んだよ」などと責任を持たせてください。

【年末・年始のごあいさつをしよう！】

年末・年始は、親戚の方をはじめ人に会う機会が多くなります。子どもたちには、この時期に特有の日本ならではの「あいさつ」をしっかりと身につけてほしいと思います。「よいお年を（お迎えください）」「あけましておめでとうございます」「今年もよろしくお祈りします」

【計画的に家庭学習に取り組もう！】

冬休みの課題は、早めに取りかかり忘れずに仕上げましょう。他にも、読書や苦手だった勉強の復習などをしましょう。また、なわとびやかけ足などをして、寒さに負けない体づくりに取り組みましょう。

【出かけるときは、お家の人にきちんと伝えよう！】

・いつ（何時から何時まで） ・どこで ・だれと ・何をする

交通事故には十分に気をつけましょう。自転車のルールも守りましょう。

よいおとしを



～お知らせ～

- 学校が閉まっている日（職員が誰もいません）
12月24日（月）【天皇誕生日の振替休日】、12月31日（月）～1月3日（木）【年末・年始】、
1月4日（金）【閉校日】
- 3学期始業式 1月8日（火） ※ 元気に会いましょう！
- 卒業式における卒業生の服装などについて（※ 学校だより第3号 4月26日発行でも案内済み）
お子様にとって「卒業式は最後の授業」です。羽織・袴などの着慣れない服装、ヘアメイク、ネイル等 華美になりすぎないように、重ねてご理解ご配慮をお願いします。

たかちゃん ～車いすで学校生活を送る子との出会い～

終業式で、以前から伝えようと思っていた一人の教え子のことを話しました。私が、かつて勤務していた小学校で、4年生から6年生まで支援学級で担任したその男の子は、皆から親しみを込めて「たかちゃん」と呼ばれていました。

たかちゃんは、生まれつき脳性麻痺という病気で足が不自由なために、車いすで学校生活を送っていました。冗談が好きで、よく笑うたかちゃんは、苦手な算数の授業が終わると、「体力が減った。歳をとった。」などと言っていました。

たかちゃんは、3年生までは給食当番をしなくてよいことになっていました。車いすでおかずをよそったり、配ったりするのは無理だろうという、担任や周りの友達の良い気持からだったのでしょう。

転機になったのは4年生です。新しい学級の担任から「たかちゃんも当番するのが当たり前でしょ！」と言われ、給食当番をすることになりました。給食エプロンをつけ、車いすのまま、牛乳を配ったり、おかずをつけたり、時間はかかるものの他の誰よりも熱心に当番がんばりました。

初めて当番をした日のことを、後日、母親から聞きました。たかちゃんは、「ぼくは、給食エプロンがあこがれだったんだ」とお母さんに話したそうです。

体育の時間も、皆と一緒にすることがありました。足でボールを蹴って走るキックベースの授業では、皆で「たかちゃんルール」を考えて、たかちゃんも楽しめるように工夫しました。たかちゃんは、セーフになると大喜びし、試合に負けると誰よりもくやしがっていました。

体育で「とび箱」をすることになりました。私は、「困ったなあ。どうやってとび箱をさせたらいいだろう」と思いました。でも、その頃には私はあれこれ指示を出すことはせず、本人に「どうする？」と聞くようにしていました。

皆の跳ぶ様子をジッと見ていたたかちゃんは、「先生、とび箱1段だけ置いて」と言いました。私が1段目だけ置くと、車いすから降りて手の力だけで乗りこえました。「もう1段置いて」たかちゃんのチャレンジは続き、結局、5段もの高さを乗り越えることに成功しました。いつの間にか、たかちゃんの周りには友達が集まり、「たかちゃん、もう少し!」「がんばれ!」と大きな歓声や拍手がおこりました。

毎日の関わりを通して、私や周りの児童の中には、たかちゃんが「車いすで生活する」特別な存在でなく、明るくて面白くてちょっとドジをする大切な友達の一人という当たり前の関係ができていました。

もちろん、教室移動や階段の上り下りなど、学校生活の中で、周りが手伝ったり、力を貸したりしなければならぬ場面はたくさんありました。でも、本人がやりたいこと、できることまで周りが「してあげる」ことは、たかちゃんにとってうれしいことばかりではないなあと感じるようになりました。

私は、たかちゃんとの出会いによってたくさんのことを学ばせてもらいました。顔や性格、得意なこと・苦手なこと、学ぶスピードなど一人一人違って当たり前です。人と違うところ、できないことばかりに目を向けて、自分自身や他の人のことを評価してしまうと、とても生きづらくなってしまいます。一人一人が自分らしく精一杯生きることが認められる、励まし合える…そんな学校、社会にしていきたいですね。(森本)



たかちゃんの母親は、車いす用の駐車場に健常者が車をとめると大変なことがあると話していました。「障害」があることで、生活しづらいこと、いやな思いをすることは、残念なことですが、まだまだあるようです。

一人一人が、相手の立場になって考える思いやりの心をもつことが大切だと感じます。

「障害」は、不(①)であるが不(②)ではない。

「障害」者を不(②)にしているのは、(③)である。

ヘレン・ケラー

① 自由 ② 幸 ③ 社会

